

カトリック 新潟教区報



ともに変化する教会

新潟教区司教 パウロ 成井 大介



この教区報で、2022年度の現勢報告と決算報告が行われています。この一年も、わたしたちがともに教会活動を行うことができたことを神に感謝したいと思います。また、教区のすべての信者、教育や福祉施設の皆様の参加、取り組みに感謝いたします。

昨年度も引き続きコロナ禍による影響を受け、様々な活動が制限された一年となりました。しかし、現勢に関して言えば、コロナ禍が始まる前からすでに厳しい状況が続いていました。信者の人数は、2017年からほぼ毎年約100人ずつ減り続けています。2021年度は6894人でしたが、2022年度は6752人となっています。ただし、報告には出てきませんが、信徒台帳を起こしていない海外出身の信徒は多く、特にベトナム出身の信徒がここ数年で急増していることはご存じの通りです。

ところで、各教会や奉獻生活者の

会共同体でお願いしていました、宣教司牧方針についての分かち合いの結果を教区事務局で受け取っています。コロナ禍の中、工夫して分かち合いをしてくださったことに感謝いたします。3月27日に司教評議会でも、また4月29日には宣教司牧評議会で、皆様からいただいた意見について話し合いました。

皆様に話し合っていたいただいた質問は、新潟教区が抱えている課題、例えば信徒数が減り、高齢化が進み、司祭が減り、海外出身の信徒が増え、社会が変化して日曜日に教会に來られない信徒が増える中で、わたしたちはどのように共同体として歩むことができるのかということでした。寄せられた意見には、様々な取り組みのアイデアがちりばめられています。皆様からの意見は、互いに学び合うための資料として宣教司牧方針やその他の場で紹介していきたいと考えています。

いただいたご意見を読んで改めて感じるのには、現勢報告の数字から見える、信徒数や司祭、修道者数の減少の裏には、一人ひとりの信仰生活があり、思いがあり、希望があるということなのです。そして、大切なのは、社会も、新潟教区の共同体も急激に変化しており、それに合わせて共同体の認識や活動のあり方を変えていく必要があるということです。

復活節の間、わたしたちはミサの第一朗読で使徒言行録を読んできました。ヘブライ語を話すキリスト者がギリシヤ語を話すユダヤ人や異邦人に出会い、主の死と復活を告げ知らせます。こうして教会には様々な違った背景を持った人々が加わり、大きくなっていきますが、ここで注意したいのは、教会はキリストの死と復活を祝うこと、互いに愛し合うこと、弱い立場にいる人々を大切にすることといった、キリストの教えの根幹についてはずっと変わることなく守り、文化や言葉、習慣などについては柔軟に変化させてきたということです。15章のエルサレムの使徒会議では、ヘブライ語を話す使徒たちの習慣であった割礼を異邦人に強要しないことが決められました。

福音宣教を始めたグループが、新しく教会に入った人々のやり方に合わせたのです。教会はそうして2000年の間、教えの中心を守りながら、世界中に広がって変化を続けているのです。わたしたち、新潟教区における共同体は今起こっている変化にどのように対応していきま

すか？今年出される宣教司牧方針は、こうしたことを皆さんに問かけるものになるでしょう。

なお、昨年の決算では司祭人件費の収支がマイナスになりました。その背景については教区事務局長の報告を読んでいただけだとは思いますが、この件について、教区経済問題諮問委員会に諮り対応していきまが、教会が交わりのうちに活動を続けていくために、司祭を祈りと献金によって霊的、経済的に支えるのは、欠くことのできない大切な要素であることを心に留めていただけたらと思います。互いに協力し、歩みを進めていきましょう。

司祭人事

() 内はこれまでの任務等

4月1日付

《秋田地区》

▲土崎教会・本荘教会 主任 イグナシウス・クリスティアヌス・バサ師(名古屋教区、平針教会主任) 〓 神言修道会

▲土崎教会・本荘教会 助任 新立大輔師(土崎教会・本荘教会主任) 〓 神言修道会

▲土崎教会協力司祭の任を解く 桃田清明師 〓 神言修道会

5月1日付

《新潟地区》

▲新潟教会協力司祭 トウ・ダン・フック師(海外研修) 〓 神言修道会

〓 神言修道会

〓 神言修道会

お知らせ

連載「平和を実現する人々の幸い」は、都合により本号の掲載をお休みなします。

ひとりで悩まず
わたしたちに相談ください

カトリック新潟教区
セクシャル・ハラスメント相談窓口

司祭・修道者による未成年者性虐待と
セクシャル・ハラスメントについての
窓口です

TEL 080-8912-8758
受付 毎週火曜日 13:00~14:00
(除く祝祭日)

新潟教区

二〇二二年度

決算報告

二〇二二年度の「小教区一般会計」と「教区本部会計」の決算が宗教法人責任役員会、顧問会、司祭評議会で承認されましたので報告させていただきます。

小教区会計の収支状況

小教区一般会計は収入合計から支出合計を差引いた収支差額が283万円の赤字で、前年度の310万円の赤字から赤字に転落しました。これは経常収支の黒字が231万円縮小し、財務収支の赤字が361万円拡大したことが原因です。経常収入の献金収入が前年度比498万円減少しておりコロナの影響が続いていると思われます。また経常収支が赤字の小教区は19教会と前年度の11教会から増加しており、財政状況は厳しさを増しています。

教区本部会計の収支状況

一般会計で処理している司祭人件費等の収支額が現行の司祭給与制度ではじめて赤字となり、特別会計の司祭基金から一般会計に不足分を振替しました。これは小教区からの司祭活動負担金と司祭からの寄付金の合計では司祭の人件費等が賸えなかったということです。今後赤字の見通しであり教区全体で検討する必要があります。一粒会収支額は岡司祭の神学校卒業により黒字になり、剰余金は特別会計の一粒会に繰入りました。一般会計の実質収支残高は302万円の黒字となりました。山形教会の土地売却代金の一部を教区維持費として送金して頂いたことを考慮すると収支はほぼ差引きゼロの状況です。次年度は教区活動の再開および物価の上昇を考慮するとさらに厳しい財政運営が見込まれます。

「二粒会会計」、「建設共済基金会計」、「指定献金・特別献金集計」の決算状況は別表のとおりです。

2023年5月より新型コロナウイルスは5類感染症に移行となり行動制限が大幅に緩和されます。これにより、教会活動も次第に再開に向かうと考えられますが、すでにコロナ禍前から見られる維持費・献金の減少傾向が続けば、教会財政はより厳しくなっていくと思われます。経済問題諮問委員会で教区本部・小教区の財政について検討が行われています。信徒の皆様にも一緒に考え知恵を出し合って新潟教区の財政がより良くなるようご協力とご支援をお願いいたします。

(教区事務局長 大瀧浩一)

2022年度 教区本部一般会計収支決算書

自. 2022年1月1日～至. 2022年12月31日 (金額単位1,000円)

項 目	2022年度決算	2021年度決算	前年度増減額
負担金収入	23,683	19,476	4,207
教区負担金(教区維持費)	12,776	8,853	3,923
司祭活動負担金	5,752	5,342	410
一粒会負担金	3,475	3,601	-126
学校法人	1,680	1,680	0
寄付金収入	20,098	25,604	-5,506
司祭寄付金	15,169	19,528	-4,359
一般・特別寄付金	4,929	6,076	-1,147
献金収入	753	1,089	-336
その他の収入	493	636	-143
収入合計	45,027	46,805	-1,778
宗教活動費	4,547	5,821	-1,274
神学生養成費	2,040	3,951	-1,911
祭儀費、寄付金 等	2,507	1,870	637
事務運営費	6,379	5,308	1,071
人件費	30,520	27,472	3,048
司祭・職員給料	25,623	23,473	2,150
法定福利費	3,211	2,942	269
その他	1,686	1,057	629
その他の支出	1,487	1,089	398
支出合計	42,933	39,690	3,243
①収支差額	2,094	7,115	-5,021
< 一般会計に含まれている特別会計 司祭寄付金等と司祭人件費 >			
司祭寄付金・司祭活動負担金(収入)	20,921	24,870	-3,949
司祭人件費(含法定福利費)(支出)	23,270	20,610	2,660
②司祭人件費等収支額	-2,349	4,260	-6,609
< 一般会計に含まれている特別会計 一粒会負担金と神学生養成費 >			
一粒会負担金等(収入)	3,525	3,601	-76
神学生養成費(支出)	2,090	3,936	-1,846
地区錬成会等補助(支出)	13	16	-3
③一粒会収支額	1,422	-351	1,773
一般会計実質収支額(①-②-③)	3,021	3,206	-185

2022年度 指定献金・特別献金集計表

(金額単位1,000円)

項 目	2022年度	2021年度
世界こども助け合いの日献金	606	789
教区青少年の日献金	196	264
聖地のための献金	183	190
四旬節愛の献金	1,137	1,357
世界広報の日献金	286	224
聖パトリック使徒座への献金	266	300
世界難民移住移動者の日献金	290	329
世界宣教の日献金	247	276
宣教地召命促進の日献金	282	325
合 計	3,493	4,054

2022年度 小教区一般会計収支決算書

自. 2022年1月1日～至. 2022年12月31日 (金額単位1,000円)

項 目	2022年度決算	2021年度決算	前年度増減額
献金収入	71,225	76,206	-4,981
教会維持費収入	37,475	39,453	-1,978
ミサ献金収入	17,398	17,988	-590
一般・臨時献金収入	6,377	9,329	-2,952
祭儀献金収入	5,297	4,834	463
司祭活動献金収入	4,678	4,602	76
指定献金収入	3,929	4,112	-183
一粒会献金収入	3,359	3,447	-88
寄付金収入	20,112	20,596	-484
事業収入	453	471	-18
その他の経常収入	1,859	2,949	-1,090
経常収入計	100,937	107,781	-6,844
財務収入	61,712	47,838	13,874
収入合計	162,649	155,619	7,030
宗教活動費	39,716	41,693	-1,977
指定献金支出	3,980	4,078	-98
一粒会献金支出	3,478	3,545	-67
事務運営費	30,743	30,608	135
人件費	2,505	1,960	545
維持管理費	14,707	17,637	-2,930
事業支出	68	79	-11
その他の経常支出	372	494	-122
経常支出計	95,569	100,094	-4,525
財務支出	69,910	52,425	17,485
支出合計	165,479	152,519	12,960
収支差額	-2,830	3,100	-5,930
次期繰越金	98,215	101,045	-2,830

特別会計次期繰越金	2022年度決算	2021年度決算	前年度増減額
建設・補修等積立金	244,823	268,011	-23,188
その他の積立金	68,416	71,198	-2,782
繰越金総合計	411,454	440,254	-28,800

2022年度 一粒会会計収支状況

(金額単位1,000円)

項 目	2022年度	2021年度
前年度繰越残高	47,145	47,105
一粒会費収入額	3,475	3,601
岡助祭叙階式祝い金	50	-
収入額計 ①	3,525	3,601
神学生養成費	2,090	3,936
錬成会等補助	13	16
支出額計 ②	2,103	3,952
収支残高 ①-②	1,422	-351
宣教地召命促進の日献金教区組入額	182	225
資金運用利息	168	165
次年度繰越残高残高	48,917	47,144

2022年度建設・共済基金収支決算書

自. 2022年1月1日～至. 2022年12月31日

(金額単位1,000円)

支出の部			収入の部		
科目	2022年度決算	2021年度決算	科目	2022年度決算	2021年度決算
会議費	-	-	小教区負担金	1,578	1,601
旅費交通費	-	-	貸付金利息	218	243
事務委託費	150	150	受取利息	3	2
支払手数料	1	1	配当・分配金	438	438
経常支出計	151	151	経常収入計	2,237	2,284
当期末貸付金残高	71,743	79,693	前期末貸付金残高	79,693	87,643
当期末現金預金残高	123,493	113,457	前期末現金預金残高	113,457	103,374
合 計	195,387	193,301	合 計	195,387	193,301

2022年度

教会名	信徒数	洗礼		堅信	結婚 ^{注1}	入信志願者
		幼児	成人			
1 新潟	564		2	1	4	2
2 花園	211					
3 青山	246	2			1	
4 寺尾	153		1			
5 鳥屋野	66					
6 亀田	72		1			
7 白根	15					
8 佐渡	62					
新潟地区計	1,389	2	4	1	5	2
11 新発田(村上)	272	1				3
12 新津(村松)	147					
15 加茂	42					
16 三条	132	1			2	
17 見附	136					
18 栃尾	18					
新発田地区計	747	2	-	-	2	3
21 長岡	381	3	1		3	1
23 柏崎	373	2				1
24 直江津	130					
25 糸魚川	166				1	
26 十日町	120					
27 高田(妙高)	813	5	2	2	1	1
長岡地区計	1,983	10	3	2	5	3
新潟県合計	4,119	14	7	3	12	8
31 山形(新庄)	585	1	1		1	1
32 酒田	42					
33 米沢(長井)	127			1		2
34 鶴岡	190		1			
山形地区計	944	1	2	1	1	3
41 ^{注2} 秋田	1,004		4			5
42 土崎	278		1			
43 鹿角	21					
44 大館	68				1	
45 横手(上宿)	176	1				
46 能代	20					
47 本荘	46					
秋田地区計	1,613	1	5	-	1	5
新潟教区計	6,676	16	14	4	14	16
教役者・信徒						
信者総数 6,752 ……教役者数76名+一般信徒6,676名						

注1. 結婚：信者同士、信者と他キリ、信者と非キリのみ。

注2. 秋田教会には、聖体奉仕会シスターの人数（16名）が含まれています。

聖職者数	76	←司祭29、シスター47（修道会・在俗会）
------	----	-----------------------

新潟司教区統計

(2022年12月31日現在)

1. 概要

(教区人口比：0.164%)

面積	33,544.63km ²	信者総数	6,752人
人口	4,110,736人	求道者	16人

2. 人員構成

司教	1人	聖霊奉侍布教修道女会	邦人 …… 3人
教区司祭	邦人 …… 13人	外国人	…… 1人
外国人	…… 1人	聖心の布教姉妹会	邦人 …… 26人
神言会員	邦人 …… 3人	オタワ愛徳修道女会	邦人 …… 3人
外国人	…… 7人	聖クララ会	邦人 …… 9人
フランシスコ会員	邦人 …… 1人	聖マリア在俗会	邦人 …… 5人
イエズス・マリアの聖心会員		聖体奉仕会	邦人 …… 16人
外国人	…… 2人		
他教区から派遣司祭	外国人 …… 1人		
教区神学生	…… 0人		

3. 事業(2022年より認定こども園対応)

小教区教会	…… 30	教育事業(幼稚園を除く)	
分教会・巡回教会	…… 5	女子中学校	…… 1校
集会所	…… 2	生徒数	…… 62人
女子修道院(在俗会含む)	…… 6	女子高等学校	…… 2校
		生徒数	…… 591人
社会福祉事業		短期大学(女子短大1、短大1)	…… 2校
老人ホーム	…… 5施設	学生数	…… 477人
宿泊を伴う利用者数	…… 252人		
その他の老人福祉事業	…… 9施設	子ども福祉・教育事業	
宿泊を伴う利用者数	…… 98人	保育所	…… 4施設
宿泊を伴わない利用者数	…… 28,401人	園児数	…… 247人
その他の福祉事業	…… 6施設	幼稚園	…… 5施設
宿泊を伴う利用者数	…… 92人	園児数	…… 328人
		認定こども園	…… 22施設
		園児数	…… 1,289人
		その他の児童福祉事業	…… 10施設
		宿泊を伴う利用者数	…… 604人
		宿泊を伴わない利用者数	…… 3,485人

4. 移動

転入	転出	死亡	…… 72人
教区内	…… 11人		
教区外	…… 7人		
その他	…… 15人		

後記になりましたが2021年、2022年のクリスマス献金を長岡地区役員会議で北関東医療相談会に決まり送金したわけですが、その後に電話があり丁寧な暖かな言葉でお礼をいただきました。その言葉の中に、「高額な寄付をありがとうございます。」とありました。

2022年のクリスマスは、ミサで集まる献金がいづもの年より少なく心苦しかっただけに「少しはお役に立てた。」と嬉しく思いました。長澤助祭は、「わたしは、ここがガララヤだと思っています。」と、最後に力強く言われたのが心に残りました。

④生活保護法を適用してほしい
国は、生活に困窮し、命や生活の危機に瀕している仮放免者にも「最後のセーフティネット」として生活保護法を適用してほしい。

③無料低額診療事業を行う医療機関への支援・末払補填事業拡充を行ってほしい
仮放免者を受け入れている医療機関があるが、そこで生じた医療費は原則医療機関負担となり、医療機関に影響を及ぼす可能性がある。

②国民健康保険など医療保険の加入を認めてほしい
仮放免者の多くが医療を受けられない原因は、①に加えて仮放免者は、国民健康保険など医療保険に加入できず、全額自己負担の医療費を支払わなければならないこと。

①就労を認めてほしい
仮放免者が、食事・家賃・医療の確保、社会生活を営むことが困難な理由は、就労ができず収入を得ることができないため。



北関東相談会(NPO法人)は、仮放免者の生活の救済、相談支援をしている団体です。

2023年2月25日に柏崎教会で信徒養成講座がありました。講師は、北関東医療相談会で活動されている長澤正隆助祭「すべての命(健康)をまもるために」の演題で映像と一緒に講演されました。

糸魚川教会 アンナ 齊藤 政子

すべての命をまもるために

長岡地区信徒養成講座開催

地区便り

山形地区

「イエス様の道具になる名譽」

カトリック山形教会
小林 雅人

4月23日、山形教会に新潟教区の岡神父をお迎えし、ミサを捧げていただきました。昨年の5月5日に叙階されたことは教区のホームページなどで拝見してはありましたが、コロナ禍ということもあり、お迎えするまでに約一年が過ぎました。

ミサ終了後に「召命」についてお話しをしていただきました。叙階された年齢も、それまでの道のりも異色の神父様でした。故郷の姫路を離れ、東京の山谷で過ごした20年。澤田和夫神父との出会い。修道会への入会。そして司祭職へ…。しかし、「司祭召命が正しかったのかどうか、今もわからない。それがわかるのは自分が亡くなったとき」という言葉を聞き、年齢や経験ではなく、必要とされたときに「召し出し」の不思議な恵みが与えられることを感じ



ました。今も自分の弱さやいたなさを感しながら、畏れを抱きながらミサを捧げていることなど、ありのままのご自身をお話いただき、最後に「私たちがひと時でも、イエス様の道具になれば、これは名譽なこと」という言葉をいただきました。また一人、心惹かれる司祭を新潟教区に与えてくださったことに感謝いたします。

新潟地区

新潟地区信徒養成講座開催

大会テーマ「ともに歩む喜び」

新潟地区協会事務局
坂口 淳

新潟地区大会は、2023年3月11日(土)に新潟教会で開催されました。大会のテーマは「ともに歩む喜び」で、参加者は19名でした。午前9時半からは、新潟地区信徒使徒職協議会の総会が行われ、その後午前10時から、敬和学園大学の教授である山崎由紀さん(東京教区麹町聖イグナチオ教会信徒)から大会テーマと同じタイトルで講演頂きました。



の交流があったこと。そして、2008年に敬和学園大学に着任し、大学のボランティア委員会で2011年の三条水害や2012年の気仙沼市での大学生とのボランティア活動をされたことをお話されました。また、昨年の新潟県北水害では、関川村社会福祉協議会の協力で災害ボランティアの受付を担当し、被災地のボランティアのニーズ地図作りに関わったことを述べられ、被災者は高齢者が多く、ボランティアの手が必要だったことが伝えられました。現地で成井司教様と教会青年会のボランティアをされていたことの紹介がありました。

講演会が終了した後、司教座聖堂で派遣ミサが行われました。来年の地区大会は花園教会で開催される予定です。

『青年と雪の聖母の集い』

2022年12月3日・4日に、「青年と雪の聖母の集い」を妙高教会・赤倉山荘にて行いました。この集いを企画した理由は、10月23日に行われた新潟教区大会にあります。それは、教区内のつながり・未来の光を感じたからです。大会のなかで、青年は動画を作成しました。離れていて場所でも、それぞれ撮影した動画が、パトントッチをしていき、最後にはひとつになる。素晴らしい動画を見終わったあと、やはり画面越しではなく、久しぶりに実際に会いたい思いが強くなりました。

当日は現地開催と同時に、遠方にながらも交えるよう、「夕の祈り」・成井司教様司式による「青年のためのミサ」を、「雪の聖母」である妙高教会からZOOM配信しました。案内やプログラムには日本語、英語、ベトナム語で表記し、生まれた国を越えて交流しました。ともに分かち合い、協力して食事を作り食べ、祈り、歌って神様を賛美しました。

どこにいても、どのような状況におかれても、同じ信仰をもつて心から分かち合える仲間がいるという「つながり」は、豊かなお恵みであると感じました。それぞれの地域で活躍する青年を、これからも応援よろしくお願い致します。

【新潟教会 三木さおり(企画担当)】

「Withコロナ」：そう呼ばれる世の中で、様々なことが制限されるようになり、そのような時代の中で、私たちは新潟教区のカトリック青年は「今」何ができるのか。コロナ禍に突入した2020年の1月以降、この数年間、新潟教区の青年の繋がりを、その信仰の灯を絶やさないうようにと、色々と試行錯誤しながら、ようやく辿り着いた今回の「青年と雪の聖母の集い」でした。

当日は、現地での直接の交流やオンラインでの交流が出来る、「今の時代」だからこその青年の集いの形がここにありと感じました。



オンラインでの交流もいけれど、やはり、自分たちは直接仲間たちと語り合えることが嬉しいう、それが活力となっているのだなど、この集いで改めて実感しました。

この集いに参加して下さった青年の皆様、成井司教様、伊藤神父様、伊能神父様、会場を快く使わせてくださった妙高教会の皆様、そして、いつも温かく支えて下さる全ての皆様、本当にありがとうございます。これからも少しずつ、私たちらしく活動を続けられたら…と思います。

【糸魚川教会 片山詩音(企画担当)】

以下、参加者から寄せられた感想になります。

コロナ禍で制限されていましたが、ついに活動が再開できたのか、と言う喜びがありました。共に祈り、分かち合い、お楽しみもあり、久しぶりの人や、初めて会う青年と、楽しいひとときを過ごしました。青年同士で意見交換すること、新たな活動のカタチを考えるきっかけをもらえたり、小教区を超えた仲間の頑張りを見て、力づけられた。

訃報



1949年9月24日 東京都文京区に生まれる。
1987年3月15日 司祭叙階
2023年2月4日 帰天(享年73歳)
新潟教区が東京教区と姉妹関係を結ぶ際、その先駆けとして新潟に派遣され、新潟教会の助任司祭として1990年から2年間宣教司牧にご協力くださいました。
安次嶺神父様の永遠の安息をお祈りください。

パウロ安次嶺晴美神父(東京教区司祭)

れる合宿となりました。益々、青年の活動が活発になればいいなと思っています。【高田教会 佐藤知香】
長く続いたコロナによって直接集まるのが難しかった青年活動に風穴を開けてくれた会だと思いました。昨年10月の教区大会を皮切りに少しずつ新潟教区にも青年の活動に動きが見えてきたことは大きな恵みだと思います。【土崎教会 石崎友也】
今回オンラインで参加させて頂きました。特に夜のお祈りでは、成井司教様は若い青年達と一緒に祈りのひとときを過ごすことが出来、素晴らしい時間でした。
またいつか皆と交流出来るのを楽しみにしております。

【秋田教会 藤本紗耶子】

腰を痛めて直接参加できず、残念でした。ただ、ZOOM越しではあっても同年代の方々と言葉を交わすことができて良かったです。今後はより交流を深めて、それぞれの教会の様子や課題などを知り、自分たちでできることをしていけたらな、と思っています。

【糸魚川教会 吉田岳史】

教区大会を機に、青年の皆さんと繋がりを持つことができて、集いに参加させて頂きました。同じ時を過ごすことで、新潟教区の青年やベトナムの皆さんと交流する機会が得られ、とても充実した活動となりました。今回の集いで終わらせるのではなく、また素晴らしい集いを続けていけたらと思います。お忙しい中参加していただいた成井司教様、伊能神父様、伊藤神父様、ありがとうございます。【長岡教会 吉原佳奈】